



地域の課題と現状共有

久慈市連協との懇談会

岩手県学童保育連絡協議会と久慈市学童保育連絡協議会との懇談会は3月7日に久慈学童保育所みつばちの家で行われ、久慈市の保護者、指導員など約40人が参加しました。

阿部勝県連協会長は「県連協では今年度、地域の現状を把握し、情報共有するために懇談会を行っている。今日は県内学童保育の様子を皆さんにお伝えしながら、久慈市の課題なども聞かせていただきたい」とあいさつ。続いて久慈市連協の葦山純子会長が「県連協と懇談できるせっかくの機会なので、皆さんの意見や困っていることなどあれば情報共有していただきたい」とあいさつしました。

懇談会の主な内容は次のとおり。

▼周辺環境について

学童の裏山から水が流れてくる問題があり、地域の議員さん、市の担当課に相談している。市の担当課の対応がとても良く、ありがたい。

▼学童保育の事務体制について

以前は保護者会長がひとりで学童の事務全般を担っていた。現在は会長のほか事務担当を1人置き、2人で分業している。事業精算なども事務担当の保護者が担っており、周辺事業(放課後児童クラブ育成支援体制強化事業)を活用し報酬を支払っている。

▼年度途中退所者の保育料納入について

年度途中で退所する児童が増えると、運営が成り立たなくなる可能性があるため、(やむを得ない事情を除き)中途退所する場合に負担金を納めてもらうルールにしているが、他の地域の学童ではどうしているか。

＜県連協の回答＞

年度途中の退所者が多いと、収入が減り運営に支障をきたす可能性もある。一方で保育していない方からお金をいただくことで、トラブルになった事案もあると聞いている。ある学童では、保育料はサービスの対価ではなく、学童をみんなで運営するという運営費という考えで、年度途中で退所する場合には年度末までの保育料を全額納めていただくルールにしているところもある。事前に説明し理解していただいてから申込みするため、年度途中で退所する人はいない。入所の際に、学童の財政についてよく説明し、十分に理解してもらうことが大切ではないか。

▼施設について

津波浸水対策の避難場所を兼ねて小学校が移転新築される。学童クラブも学校敷地内に移転することになっている。市担当課からは、新学童の施設、設備について今後ワークショップを開催して保護者や指導員の意見を聞いて進めるとの話があった。

学校の余裕教室を活用しているが、施設が狭い。子ども同士の距離も近く、密になっていた。担当課に相談し、教育委員会と調整するとの回答をもらっている。

▼土曜保育について

3支援の単位で運営している。数年前まで土曜日は児童を1カ所に集めて合同保育をしていたが、1支援の単位分しか開設日数にカウントされないことが分かり、後に交付金の返金が生じた。現在はそれぞれの単位で土曜保育を行っている。



久慈市連協の参加者は「コロナ禍で市連協として集まる機会がなかった。今日の懇談会で県内の状況や、他の学童の様子を知ることができて良かった。これを機にまた集まりが開ければいい」と話し、対面での交流再開に期待を寄せました。

阿部県連協会長は「県内では、コロナ禍で保護者が集まる機会が減り、保護者会活動に支障がでているという話も聞かれる。学童保育についてよく知らない保護者が学童保育を運営していくのは大変なことだと思う。県連協ではこれまで保護者と指導員が学童保育について学習し、情報共有する場をつくってきた。今後は、久慈市でも研修会を開催するなどして支援していきたい」と述べました。

